

原 著

## 画像診断装置 VISIA-Evolution<sup>®</sup>を用いた 肝斑における色調と治療効果の定量的評価

黄 聖 琥<sup>1)</sup>, 渡 邊 莊 子<sup>1)</sup>, 錦 織 岳 史<sup>1)</sup>,  
佐 武 利 彦<sup>1)</sup>, 葛 西 健 一 郎<sup>2)</sup>, 大 江 昌 彦<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 再建外科, <sup>2)</sup> 葛西形成外科,

<sup>3)</sup> 常盤薬品工業株式会社 ブランド戦略本部 開発研究所

**要 旨:** 肝斑の色素沈着に対する治療効果を定量的に評価することは重要であり, 多くの施設が紅斑・メラニンインデックスメーターを用いて定点評価をしている。肝斑病変の分布の性質上, 2次元的に色素沈着の程度を評価する必要がある。そこで我々は画像診断装置 VISIA-Evolution<sup>®</sup>で撮影し, 編集されたメラニンインデックス画像を用いて, 肝斑部と指定した範囲内での輝度の平均値をもって定量評価した。周囲健常部は比較的明るい2か所の輝度の平均値とした。メラニンインデックス画像で肝斑部と周囲健常部の輝度の平均の比を肝斑指数と定義した。

肝斑部輝度, 周囲健常部輝度, 肝斑指数がそれぞれ治療前後で改善しているか, また定義した肝斑指数が肝斑部の肉眼的なみための改善と相関するか統計学的に検証したところ, 治療効果はいずれも有意差があり, 肝斑指数の改善の度合いと肉眼的な評価との相関において改善の明らかな症例については優位差が示せた。

肝斑の色素沈着の程度や治療効果を判定する上で, 色素沈着部の絶対的評価はもちろん重要であるが, 長期的な病態の動向を追う上で周囲の色調との相対的な評価も必要である。その1評価法として肝斑指数を定義し, 肉眼所見との相関において改善の明らかな症例については有意差を示せたが, 精度や有用性についてさらなる検証が必要である。

**Key words:** 肝斑, VISIA, メラニンインデックス画像, 定量評価, 肝斑指数